

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL.33
平成 31年 1月 30日
発行：安全委員会課 細見・山川

安全委員会開設8周年記念号

『安全委員会の記念集会に』

初めて参加させていただいて、感じたこと

羊ヶ丘養護園 安全委員会委員長 澤 聡一

羊ヶ丘養護園安全委員会の八周年を、心より喜び申し上げます。

当日、羊ヶ丘養護園の皆さんの決意や取り組みをお聞きして、深く感動しました。八周年もの長い間、安全委員会方式を続け、守り育ててこられた職員の先生方、また安全・安心のためのルールを守り続けてきた子ども達一人一人に、心からの尊敬の念をお伝えしたいと思います。

ただ「長く続いているからすごい」ではなく、「楽な方に流れてい」という人間の気持ちに立ち向かい続けているからこそ、素晴らしいのだと思います。

例えば火災などの災害時に避難を促す放送が流れても、すぐに逃げ出す人は多くはありません。人は「どうせ間違えたらどう」「自分だけは大丈夫」と思ったがったり、「みんな逃げてないからいいか」と考える心理を持っているからです。こうした心理を「正常性バイアス」や「同調バイアス」と言いますが、暴力の問題に対しても同じことが言えます。「自分の事じゃない」「いつもの事だから別にいいか」「皆もやってるし」と、自分が不安を感じないでいいように、大ごとにしたくないのが人間の心理です。

こうした心の働きに打ち勝つのは、簡単なことではありません。子どもたちと職員の先生方、地域の皆様や、外部から羊ヶ丘養護園の皆さんを見守る方たちの力を合わせて、安全・安心である事がどんなに大切であるかを、全員で確認し続けていく事が大切です。

安全委員会内部委員に就任して

内部委員 内山 大輔 (勤続3年)

私は、小学校1年生から4年生の男の子が生活する、はばたきユニットで保育士をしています。

今年度は内部委員になったこともあり、子どもたち同士のつながりから始まる暴力や些細なトラブルからの暴言・暴力の安全委員会対応に多く介入しました。その中で私が感じたのは、被害者も加害者もきちんと互いに相手の話を聞くことがとても大事だと感じました。なかなか相手に対して言葉で伝えることが苦手な子どもが多いはばたきユニットですが、年齢が小さい頃から暴力で解決するのではなく、きちんと言葉で相手に「嫌なことを嫌だ」と伝えられることや、職員が日頃から子どもたちのそばに寄り添って、自分の気持ちや相手の気持ちを一緒に考える機会を設けたり、他児に言いにくそう

日々の生活の中で、子どもと一緒に考える関わりをしながら、相手の気持ちを理解できる力をつけ、暴力や暴言がない楽しい生活を子どもと共に送っていききたいです。

内部委員 山川 裕子 (勤続1年)

今年度より児童指導員として働くことになり、ライラックユニットに配属され、小学生から高校生までの女の子と生活をしています。

ライラックユニットではトラブルが起きても暴力に発展することはありません。ですが、絶対に暴力が起きないという確証はなく、いつ何時安全委員会対応をしなければならない状況が発生するかは誰にもわからないことです。その時の為に、今は先輩方の安全委員会対応から学び、一つでも多く自分のできることを増やしていけたらと感じています。ライラックは、今年度で卒園する子どもが二人いるユニットでもありますので、今いる子どもたちは勿論のこと、今後入所してくる子どもが安心して過ごすことが出来るよう、環境を整えていきたいと思います。そしていざ自分が先輩職員になった時、後輩へも指導ができるよう、今後もスキルアップを目指し、頑張っていきたいと思っています。

『羊ヶ丘養護園安全委員会8周年を迎えて』

子ども達の成長を楽しみに……

羊ヶ丘養護園 施設長 大畑 和子

平成最後の年になり羊ヶ丘養護園の安全委員会は、たくさんの皆様のご支援を頂き八周年を迎えることができました。

八年前、羊ヶ丘養護園に安全委員会を立ち上げた時に、キーパーソンドった小学六年生の子が、成人となり社会人としてがんばっている姿に、私自身も元気をもらっています。

今も、時々卒園生が来園して、その当時中学生だった子が、「養護園に安全委員会ができて小学生に、おい！ お前かかってこいよ……」と言われたときに、こぶしを握り我慢したことがあったな」と懐かしそうに話す姿に、子ども達にとって安全委員会の取り組みは、記憶に残る経験であると感じています。

今回の八周年記念式典は、緊張感が漂う中、子どもと職員からの決意表明は、職員の子も達に対する思いの強さと子ども達の成長に触れる機会となり、委員の皆様からの励ましのお言葉は、「また一年みんなでがんばろう」という意欲を持たせてくれました。本当にありがとうございます。

子ども達が毎年楽しみにしている恒例の会食では、すきやきパーティーとケーキバイキングでのお祝いに子ども達は大喜び。男子ユニットでは二次会が開かれ、すきやき風うどんパーティーで、高学年の子が、幼い頃の園での生活や安全委員会ができた時の思い出話をしながら楽しい時間を過ごしていました。安心・安全な生活は、何もしないで得られるものでなく、一人ひとりの意識が積み重なって揺るがないものになっていくと思います。職員と子ども達が一緒に「暴力はダメ」「例え相手が悪くても暴力はダメ」「自分の気持ちは言葉で優しく伝えよう」の約束を語り続け、「暴力をするな！ させるな！ 羊ヶ丘！」をスローガンのもと、たくさんの皆様からの応援を元氣と勇氣に代えて子ども達の成長を楽しみにがんばります。



ボプラユニット長 児童指導員 松本 拓己 (勤続11年)

安全委員会を続けてきて良かったこと。それは悪質な暴力がほぼ無くなったこと。八年前からいる子どもたちは口を揃えて言うでしょう。そのことによつて子どもたち一人一人が将来を夢見て、誰にも足を引く張られることなく自分の夢を追いかける事が出来るようになってきたのではないかと。ボプラの子たちの成長を見ているとそう思うようになってきました。

安心と安全。そして自分の人生は自分で思い描いていける生活。養護園の皆がもっともっと当たり前のようこのような生活を送っていけるように、今日からまた皆と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

今年から幼児さんも安全委員会の対象とすることになりました。ユニットに「暴力をしてはいけないよ」という事を絵にかき、ポスターにして貼り出した事で「どんなに怒っていても叩くのは間違っているよ」とや「怒っている事、やめて欲しい事を言葉で伝えること」が大切だと子どもたちにも理解してもらい、覚え始めて来たのではないかと感じています。これからも子ども、職員が力を合わせてみんなが優しい気持ちを育てていけたらと思います。

地域小規模施設白樺 保育士 多田 夏美 (勤続1年)

4月から子どもたちと一緒に過ごしてきて、たまに衝突している姿も見られますが、相手のことを受け入れ思い合つて生活している子どもたちの姿があり、学ぶことが多い日々です。それぞれの成長を近くで見、関わってきた子どもたち同士だからこそ、理解し合つて過(こ)せているのだと思えます。

養護園を巣立ってからもその繋がりが子どもにとって少しでも頑張る力になってくれたら嬉しいですね。これからも子どもたちと過(こ)す時間を大切に、子どもたちが安心して生活できるように子どもとの関係を築いていきたいと思います。そして養護園を離れてからも安全委員会での教えを心にとどめ、心優しい素敵な女性になって欲しいです。

初心に戻り施設の安心安全な環境を

作り上げるために

羊ヶ丘養護園 指導部長 神田 知幸

当園の安全委員会は8周年を迎え、安心・安全な生活作りへの取組みとして安全委員会方式を取り入れ、「暴力を振るわない生活」が子どもたちに浸透してきたと思います。

当園は、3年前に大舎から小規模ケアとなり、子どもたちと職員との距離感が近くなったことで、リアルタイムで暴力の抑止と対応ができる環境になったという反面、暴力に対する認識が曖昧になっていることがあると感じています。

職員は、子どもたちの発言や行動において、「この程度は生活指導の範囲である」と考えることもあるようで、そこに暴力が起きていても安全委員会方式を活用した取組みがなされないケースも出てきている現状がありました。

今年度は、幼い頃から当園で育った子が7名退所します。そのため新入所児童が増え、今までの安定した生活が崩れる可能性も予測されることから、子どもたちに安全委員会方式の取組みを理解する機会と継続した実践を行えるよう皆で力を合わせて取組んでいきたいと思います。また、職員が暴力に対する指導を一貫できるように園内研修を充実し、職員のスキルアップを行うことが安全委員会方式の発展に繋がっていくことを目標に頑張ります。

外部委員の皆様8周年記念式典の際には、子どもたちに励ましのお言葉を頂き本当にありがとうございました。これからも宜しくお願ひします。

